

WEEKLY SIGNAL

平成28年12月16日(金) 1354号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/19(月)	12/20(火)	12/21(水)	12/22(木)	12/23(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△2,600	△4,000	△5,000	△5,000	
財政他	△4,000	+60,000	+2,000	△1,000	
資金需給	不6,600	余56,000	△3,000	不6,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5年・10年・20年・30年) 国債償還(5年・10年・変動15年)		交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △1,500 CP等買入 △300 国債補充 +200			被災地支援 0	休日
オペスタート	共通担保(全店) +1,600	国債買入 +3,900		被災地支援 +100 社債等買入 +1,300	
(日本)	国債投資家懇談会 日銀金融政策決定会合(1日目) 貿易統計(11月)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁記者会見	全産業活動指数(10月)	日銀営業毎旬報告(12月20日現在) 日本銀行が保有する国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券の銘柄別買入額	
(海外)	独 Ifo景況感指数(12月)		米 中古住宅販売件数(11月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(12月)	米 7-9月GDP(確定値) 米 新規失業保険申請件数(17日終了週) 米 FHFA住宅価格指数(10月) 欧 ECB経済報告	米 新築住宅販売(11月) 米 シカゴ大学消費者マインド'指数(12月確定値) 米 債券市場は短縮取引

<インターバンク>

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

週の日銀当座預金残高は、週初309兆円台から始まり、その後年金定時払い等財政要因で15日には323兆円台まで増加し、週末は325兆円9,900億円となった。無担保コールON物は、週初は▲0.075~▲0.03%で取引され、積み最終日近辺の14、15日には▲0.04~▲0.015%まで上昇した。12月積み期初となる16日はマクロ加算残高にかかる基準比率の見直し(10%→13%)による調達余力拡大や3日積みであったことから、堅調な地合いとなり、▲0.055~▲0.03%の範囲で取引された。同加重平均金利も同様に週初▲0.052%から積み最終日に▲0.029%まで上昇し、週末16日には▲0.037%となった。ターム物は年内物を中心に▲0.03~▲0.025%での出合いが散見された。14日に公表された日銀短観では大企業製造業業況判断DIが+10となり、前回調査(9月調査+6)から上昇した。翻って海外では15日にFOMCが開催され、25bpの利上げを決定した(0.25~0.50%→0.50~0.75%)。また、同日公表の経済予測では2017年の政策金利見通しは1.25~1.5%(利上げ回数3回)となる可能性が高いとの見通し示された。尚、FOMCの結果を受け、ドル円はそれまでの115円から118円台まで円安ドル高となった。来週の予定は、19・20日の日銀金融政策決定会合や22日の米GDP(7-9月)が挙げられる。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約9,000億円、期落ち額約6,100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。ノンバンクの大型案件が連日見られ、発行増に繋がった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は8,100億円程度となっている。

<TDB>

15日に国庫短期証券3M第652回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3925%(前回債△0.3903%)、平均落札レートは△0.4196%(同△0.4032%)と前回債と比べて利回りはやや低下した。セカンダリーは3Mで△0.40%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.31%近辺の地合いだった。来週21日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは先週に引き続き△0.09%台の出合から始まったが、積み最終日の15日受渡してレートが上昇。SNで△0.085%、TNでは△0.07%台の出合も見られた。国債買入れオペがオフアされた16日受渡しては再度△0.09%台まで低下。国債大量発行日となる20日受渡してもレートの上昇は限定的で、△0.085%~△0.09%が出合いの中心となった。SC取引では、5年129回債のビッドが週央から増加、△0.50%近辺の出合いも一部見られた。10年344回債は週初△0.25%~△0.35%、週末には△0.40%台半ばで多く取引された。他2年370・371回債、5年127・128回債、10年325・335・341・342・343回債、20年157・158回債、30年50・51・52回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。